

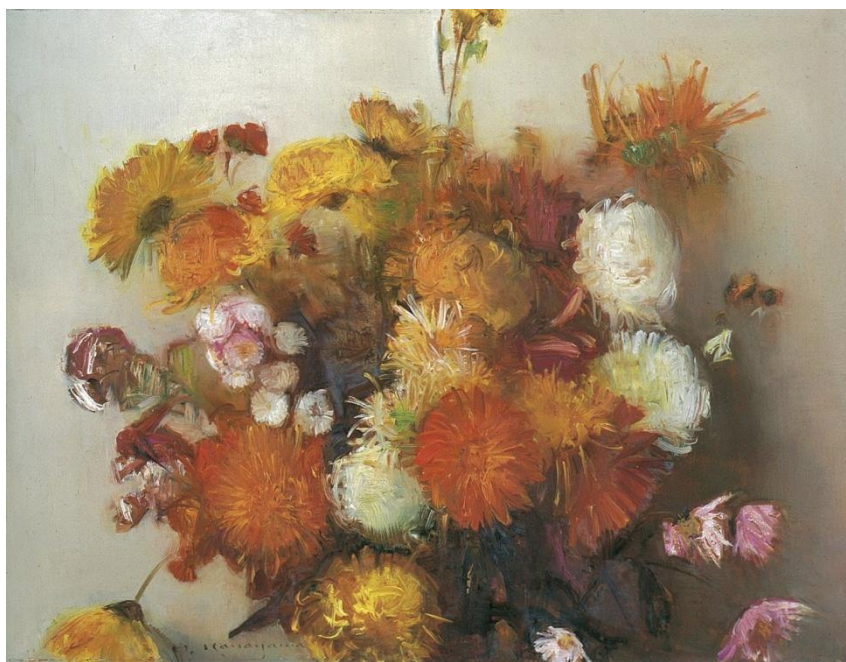
プレスリリース

2015 年 10 月 1 日

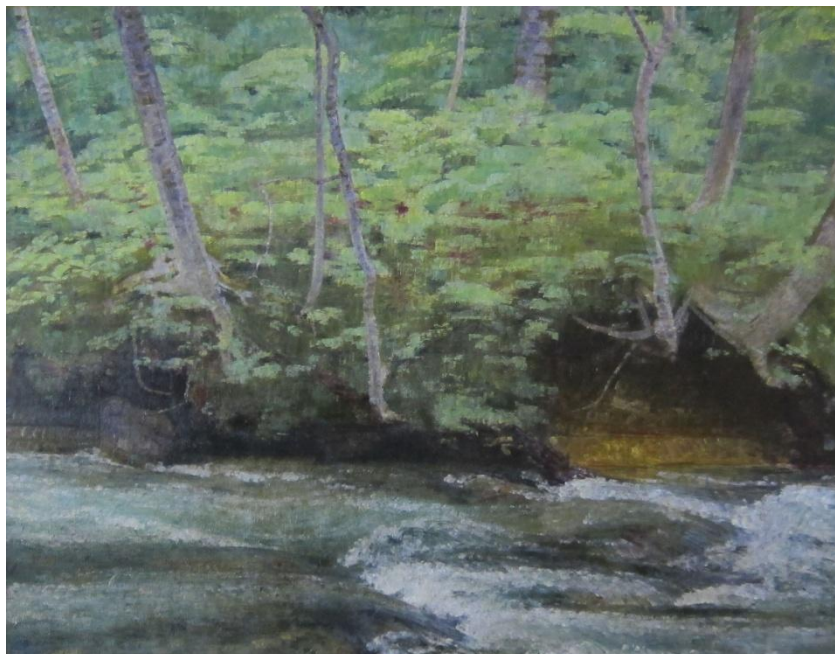
笠間市笠間 978 - 4
公益財団法人日動美術財団
笠間日動美術館

金山平三・佐竹徳 記念室

10 月 1 日、笠間日動美術館パレット館 3 階にオープン



金山平三「菊」1935-45 年



佐竹徳「奥入瀬」1957 年

拝啓

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配、ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

この度、笠間日動美術館ではパレット館 3 階に金山平三・佐竹徳記念室を開設いたしました。下記に詳細を御案内いたしますので、ご報道、ご紹介を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. ごあいさつ

世俗を離れ、日本の風土と四季を描き、時に取材に同行した金山平三と佐竹徳。その交流は出会って以降、金山が没するまで 40 年余りにわたりました。

金山平三（1883-1964）は神戸に生まれ、東京美術学校では黒田清輝に師事、同校を首席で卒業しました。こののち渡欧して印象派に接するなど見聞を深めるとともに、油彩画の伝統的技法を探究しました。帰国後は第十回文展で特選となり、その後の活躍も目覚ましく画壇での地位を確固としていきます。主題はおもに信州から北国をはじめとする日本各地の四季、分けても雪のある風景を取りつかれたように描き「雪の金山」と称されました。しかし、1935年の帝展騒動による美術界の混乱を機に画壇を離れ、1959年に再び官展に出品するまで長い歳月を要しました。この間、山形県大石田町にも画室を持ち、より制作に励む一方、齋藤茂吉ら文人とも親交しました。

大阪に生まれた佐竹徳（1897-1998）は関西美術院に進み、東京に出て藤島武二の川端絵画研究所で学びました。1920年、第二回帝展で審査員であった金山に認められ、ただ一人2点の作品が入選します。その後も近代絵画に新しい道を拓いたピサロやセザンヌの造形を探究、奥入瀬、三瀬、伊勢志摩などに赴き、また果実や花など静物にも主題を求めました。1959年には、瀬戸内海に面した岡山県牛窓町（現：瀬戸内市）の赤い土とオリーブの緑に魅せられ、画室を同地に移して数々の名作を生み出していきます。あらゆる命を慈しむ人柄と求道的な制作姿勢により「牛窓の聖者」と呼ばれました。

清澄で闊達な筆致で気品溢れる名品を生みだし日本芸術院会員となった両画家の作品は、指標を見失いつつある油彩画壇の今日、改めて評価されています。

生前から美術愛好家に深く敬愛されている画家であります。本記念室の開設により、さらに多くの皆様にご覧いただけることを願っております。

2. 開 設 日 2015 年 10 月 1 日

3. 会場の大きさ 約 180 m²

4. 展 示 内 容

代表作を中心に金山作品を 20 点、佐竹作品は大作を中心に 15 点を展示しました。

またパネルでは画家本人と関係者の言葉を掲示。関連資料と合わせ、両画家の生涯と人柄を御紹介します。（適時、展示替えを行います）

5. 収蔵作品

当館は、金子コレクションを筆頭に金山作品約 80 点、佐竹コレクションを中心に佐竹作品約 60 点、及び関連資料を収蔵しています。

【金子コレクション】

金子阿岐夫氏のコレクション（現：笠間日動美術館所蔵）は、当館が収蔵する金山平三作品の半数近くにのぼります。山形県大石田の旧家出身、開業医であり歌人である金子氏は、金山の人柄と作品に感銘を受け、長きにわたり作品を収集されました。2013 年逝去。

なお金子氏の実父、板垣家子夫氏は、戦時中、大石田に疎開していた金山に私淑しその制作を支え、同じく疎開中の歌人、斉藤茂吉を紹介するなどして親交しました。

【佐竹コレクション】

当館の収蔵する佐竹徳作品のほとんどが、佐竹徳の長女、佐竹美知子氏のコレクション（現：笠間日動美術館蔵）です。

佐竹美知子氏（1935 年生）は、大勢の生徒にピアノを教える傍ら、地方に埋もれた佐竹徳の作品の発見や保存に努め、また市場の佐竹作品を購入するなど、生涯を通じて父の画業の顕彰を目指しました。2014 年逝去。

6. 交通案内

【JR利用】

- ・常磐線友部駅北口より『かさま観光周遊バス』（9:50/10:50/11:50 発）で約 15 分（片道 100 円）
または市内循環バスで約 15 分。「日動美術館入口」下車徒歩 2 分
- ・水戸線笠間駅より徒歩約 20 分（日動美術館・春風萬里荘共、但し方向は逆）
『かさま観光周遊バス』またはレンタサイクルの利用が便利です。

【自動車利用】

- ・常磐道友部 JCT 経由、北関東道友部 IC より国道 355 号線経由約 6km
- ・東北道栃木都賀 JCT 経由、北関東道笠間西 IC より国道 50 号線経由約 8km

【高速バス利用】

- ・秋葉原駅前より『関東やきものライナー』（8:20 発）で約 2 時間。
「笠間稻荷神社入口」下車徒歩約 10 分（片道 1500 円往復割引あり）

7. お問い合わせ

担当：金澤敦子（03-3571-2553 日動画廊）

〒309-1611 茨城県笠間市笠間978-4 笠間日動美術館

電話：0296-72-2160／Fax：0296-72-5655

Mail：kanazawa@nichido-garo.co.jp